



第 284 回例会

日 時：令和元年 6 月 13 日(木) 17:00～17:30

場 所：八王子エルシィ

出席者：47 名 出席率 74.6%

(会員総数 63 名 欠席 16 名)

1. 開 会 池田例会委員長

第 284 回例会開催告知。配付資料確認。

2. 黙 祷

5 月 11 日に逝去された渋谷文雄会員を偲んで黙祷を捧げた。

3. 挨 拶 馬場会長



今年度の例会も本日が最後となりました。今年度のテーマとして「語り合おう」を掲げ、前年度に浮き彫りになった課題や新しく顕在化した課題について、率直な意見交換を目指して参りました。特に

理事会では理事各位による率直な意見の交換が行われ、有意義な議論が行われたと思っています。

中でも、新会費体系の導入、印刷を中心とする業務の内部取り込みによる経費節減、学習サロンの改革の方向性の模索あるいは全日本プロバス協議会に関する認識の共有、などが印象に残っています。

一方では、例会毎に参加費を徴集する手間の煩雑さや例会出席率の悪化などの予期せぬ課題も発生しており、課題を持ちこすことは忸怩たる思いであります。

最後に、理事各位並びに会員の皆様のご協力ご支援に感謝申し上げます。一年間、ありがとうございます

ました。

一点追加があります。昨日山形忠顯会員から、一身上の都合により今月末で退会したいとの申し出がありました。突然のことで驚いていますが止むを得ないご事情と理解しました。

4. バースデーカード贈呈

池田会員手作りのバースデーカードが馬場会長から贈られた。写真左より一瀬、塚本、持田、山形の 4 会員（廣瀬会員は欠席）。



5. 次年度人事構成の発表

飯田副会長から次年度の人事構成が発表された。

〈次期役員分掌〉(敬称略)

会 長 飯田富美子

副会長(兼交流担当)

田中 信昭

幹 事 一瀬 明

副幹事 有泉 裕子

例会委員会委員長

情報委員会委員長

会員委員会委員長

研修委員会委員長

飯田副会長



齋藤万里子

河合 和郎

寺田 昌章

山口 三郎

地域奉仕委員会委員長	武田洋一郎
宇宙の学校プロジェクトリーダー	下山 邦夫
会計監査	岡部 治
会計監査	根本 洋子

〈各委員会副委員長〉

例会副委員長	池田ときえ	野口 浩平
情報副委員長	内山 雅之	持田 律三
会員副委員長	岡本 宝蔵	深谷 正徳
研修副委員長	荻島 靖久	根本 照代
地域奉仕副委員長	根本 洋子	有田 進治
宇宙の学校プロジェクトサブリーダー	下田 泰三	高取 和郎

6. 幹事報告

寺田幹事

2018 年度の幹事報告は今回が最後になります。

1 年間皆様のご支援・ご協力に感謝します。幹事からの報告は 4 件です。

- ・入退会等手続きに関する細則第 2 条は「会員は、所定の用紙により申し出を行い、理事会の承認を得る。なお休会期間中、その間の会費は月額 3 分の 1 とする」とあります。会費を月額 3,000 円から 2,000 円に変更したときに修正漏れがあった項目です。休会期間中の会費は 1,000 円とすることが理事会で決まりました。7 月総会に提案します。

- ・例会の無断欠席について、1,000 円の徴収方法を含めて体制を作り、7 月から実施します。無断欠席が無くなる事を期待します。

- ・5 月 19 日健康フェスタがエスフォルタアリーナで行われ、8 名の会員のご協力で受付業務が行われました。ご協力ありがとうございました。

- ・5 月 22 日多摩プロバスクラブの創立 15 周年記念式典と祝賀パーティーがパルテノン多摩で開催され、馬場会長以下 4 名の会員が参加しました。

7. 委員会活動報告

(1) 例会委員会

池田委員長

出席者数、出席率は当初報告の通り。

(2) 情報委員会

持田委員長

- ・プロバスだより 283 号を配布いたしました。今月号は佐々木秀勝会員が編集担当でした。今月は臨時総会、新会員 2 名の紹介、渋谷会員への追悼文とたくさんの掲載がありました。そして寄稿文は杉山会

員と山形会員から頂きました。ありがとうございました。

- ・HP への 5 月のアクセス回数は 325 回でした。この 1 年で過去最多を記録しました。

- ・HP のトップページの模様替えを 6 月初旬に行いました。八王子の春夏秋冬の風景を採り入れて、変化を持たせる工夫を行いました。

- ・サロンの抄録を本日お手許にお配りしました。1 年間ご協力ありがとうございました。

(3) 会員委員会

岡本委員長

- ・会員動向 佐々木研吾会員から休会届（7 月から）が提出されました。

- ・新年度の会員名簿を作成しますので、今年度の名簿に修正等がありましたら申し出てください。

- ・6 月 13 日現在の会員数は 63 名です。

- ・会員の皆様、委員会の皆様のご協力により、新会員 5 名の方々の入会を得ることができました。厚く御礼申し上げます。

(4) 研修委員会

有田委員長

① 野外研修：11 月 8 日に「今、八王子の大学が面白い！」をテーマに、学園都市に点在する知的刺激に溢れる大学というリソースに着目して、特色のある 3 大学を見学。参加者は 41 名で、5 年ぶりに 40 名の大台に乗った。

② 「自主学习グループ」の立ち上げ

- ・目的：豊かなプロバスライフを送るために、仲間と共に生涯学習に取り組み、自己の充実を図る。そして、その成果を社会に還元していく。

- ・結成グループ：「八王子老年研究会」「教育問題研究会」

(5) 地域奉仕委員会

一瀬委員長

本日、プロバス会員の皆様および一般会員の皆様そのほかの関係各位に第 23 回生涯学習サロンの抄録冊子を発送いたしました。

情報委員会の皆様には厳しいスケジュールの中お世話になりました。また講師を務めていただいた会員の皆様方にも改めてお礼申し上げます。

いわばこれが今回のサロンの見える形でのアウトプットの一つですが、この背後にある山あり谷ありの地域奉仕委員会の諸活動を汲み取っていただければ幸いです。

サロンも転換期にあると前からお話ししていると

ころですが、今回のサロンの総括と今後のあり方について理事会の賛同をいただきました。次期以降の委員会に託したいと考えますが、これからも皆様のご支援を今まで以上に賜りますようお願い申し上げます。1年間本当にお世話になりました。

(6) 八王子「宇宙の学校」 下山PJリーダー

○応募状況と対応策

会 場	募集	応募	通知数	対策内容
東京工科大	90	125	90	第2希望で対応
教育センター	64	59	74	第2希望で対応
八王子学園	88	70	88	第2希望で対応
計	242	254	252	23組が第2希望に

註) 八王子市外、の方は除き、応募者の100%を受け入れる。単位は組。

○ 八王子学園の準備状況

・諸道具類準備完了。

・6月4日に生徒ボランティアへの事前総合研修を実施(44名が参加)(この中の生徒2名は、小1・2年生の時「宇宙の学校」への参加経験あり)

○6月9日工科大会場から予定通りスタートする。

8. 同好会報告

・フラダンス同好会

根本(照)会員

同好会活動は3年弱になりますが、ご指導いただく先生がお止めになり、同好会のメンバーも減少していますので、一時休会とします。

・古典芸能鑑賞会

9月に文楽の鑑賞会を行います。申し込み等は池田会員まで。

・ゴルフ同好会

持田会員

〈第13回多摩3地区プロバスクラブ合同コンペ〉

2019年5月17日(金) GMG八王子ゴルフ場において、日野・多摩・八王子の3プロバスクラブによる合同コンペが開催され、八王子から7名参加。

八王子のメンバーは今回も大健闘しました。

優 勝：田中信昭 85 (Net73)

準優勝：一瀬 明 93 (73.8)

第3位：小林昭治(日野プロバス) 87 (73.8)

〈第35回八王子プロバスゴルフコンペ〉

2019年5月24日(金) GMG八王子ゴルフ場

今回は9名の参加者でのコンペになりました。

優 勝：矢島一雄 92 (Net74)

準優勝：寺田昌章 90 (74.4)



第3位：堀 武彦 79 (75.4)

今回、堀会員が初めて参加されました。また、秋に89歳を迎える小林貞男会員は2週連続のコンペにも元気にプレーされました。

9. その他

山形忠顯会員が退会の挨拶をされた。

「私は2010年5月に永井会員の紹介で入会しました。この度、止むを得ない理由で退会することになりましたが、9年間にわたるご交誼に感謝すると共に、プロバスクラブの益々の発展を祈念します。」

10. プロバス讃歌斉唱

11. 閉 会

飯田副会長

本日、23期の最後の例会が終了しました。馬場会長、寺田幹事をはじめ役員の皆様の1年間のご苦勞に感謝申し上げます。お疲れ様でした。

来期はいよいよ飯田の出番ですが、会員皆様のご協力を頂きながら、自然体で行きたいと考えております。よろしくお願い致します。この後は年度最後の懇親会です。皆さんでお楽しみください。以上で例会を終了します。

特別講話

「高齢社会における社会参加と健康づくり」

桜美林大学大学院 老年学研究科

芳賀 博教授

2018年度活動の最終例会となる6月13日は、桜美林大学大学院老年学研究科の芳賀博教授をお招きし「高齢社会における社会参加と健康づくり」と題し、特別講演会を開催した。

桜美林大学は、わが国を代表する「老年学の総合研究機関」として知られており、芳賀教授は斯界の

第一人者である。

また、この特別講演会は、今年度から新たに発足した「自主学习」の一つでもあり、杉山会員が座長を務める「八王子老年研究会」の活動の総まとめの位置づけ



けとしても行われたもので、講演の要旨は次の通り。

（１）生きがい・健康づくりの源泉は社会参加

高齢期の生活を実り豊かにする３条件は、① 疫病や疾病に関連した障害の発生が低いこと② 認知機能・身体機能が良好に保たれていること③ 他の人との交流や生産活動、すなわち社会活動に関与することである。このなかで、Lawton によれば、「社会的活動（社会的役割）」が最も高度で複雑な能力とされ、活動能力の低下は、「社会的役割」⇒「知的能動性」⇒「手段的自立」⇒「身体的自立」の順に逆戻りするとされている。

従って、高齢期においては、「社会的役割」を維持することが活動能力の低下予防に寄与するのみならず、生きがい等の生活の質を保つためにも有用とされている。

国の施策においても、こうした高齢者の社会参加の推進は重要との認識のもと、これまでさまざまな取り組みがされてきた。近年では、健康日本 21（第 2 次）計画をはじめ、介護予防・日常生活支援総合事業等において、高齢者が社会的役割を持つことが、生きがいや健康づくり、更には介護予防にもつながるとの基本的な考えのもと、高齢者の社会参加が積極的に推進されてきている。

（２）住民主体による社会参加を通じた健康づくりへのパラダイム転換

その具体的推進方法においても、旧来の国や専門家によるトップダウン的なアプローチでは効果に限界があることから、住民主体による健康づくりへとパラダイム転換が図られてきた。すなわち、近年の介護予防戦略においては、専門家主導による疾病や障害になりやすい特定の人を対象とするハイリスクアプローチから、地域の元気高齢者の主体的な参加を促しながら、社会全体のリスク要因を減らし、疾

病や障害の予防につなげようとするポピュレーションアプローチへと転換が生じている。

（３）住民の主体的活動を促すアクションリサーチの実践事例

一方、住民参加や住民との協働による健康な地域づくりの重要性が強調され、それに向けた実践が試行されているが、どのようにしたら住民主体で、しかも継続的な取り組みになるかは、これまで必ずしも確立されていなかった。そこで、われわれ研究者も現場の実践に参加し、住民との民主的で協働的なかわりを大切にしながらコミュニティーの課題解決を目指そうとする「アクションリサーチ（参加型行動研究）」という手法に着目して、首都圏ほか宮城県、北海道等で実践的な取組を行ってきた。（講演当日は、教授から 3 地域での活動事例につき詳細な紹介があったが、紙幅の都合により割愛する。）その結果、どの地域においても健康度の向上等の直接的な効果のほか、関係する人々のエンパワーメントを引き出すという効果もみられた。

（４）高齢化課題先進国から

高齢化課題解決先進国へ

世界に類を見ない超高齢社会を迎えた我が国において、多くのことが不安視されているが長寿は本来喜ばしいこと。悲観的に捉えがちな高齢化を希望にもてる姿に変えていくことが必要。課題を可能性に変えるのが「老年学」。みなさんと連携しながら超高齢社会に対応した国づくりに取組み、日本が世界の超高齢社会のモデルとなるよう、今後もたゆみのない努力を続けたい。（文責 研修委員会 有田進治）

懇 親 会

年度末恒例の「懇親会」は例会委員会の野口副委員長の司会・進行で進められた。

馬場会長の御礼の挨拶、岩島元会長の乾杯の発声により、賑やかに会食・懇談・ハッピーコインの披露（6～7 ページに掲載）へと進んだ。

各委員会スタッフ挨拶

一年間の会務を担当した 5 つの委員会、宇宙の学校、執行部のそれぞれのメンバーから挨拶があった。

・情報委員会



・ 会員委員会



・ 研修委員会



・ 地域奉仕委員会



・ 宇宙の学校



・ 例会委員会



・ 本部役員



お楽しみ大会(ビンゴゲームとカラオケ)

引き続き、「お楽しみ大会」として、全員参加のビンゴゲームと喉自慢の面々がカラオケを熱唱、懇親会は大いに盛り上がった。

尚、ビンゴゲームの景品には、事務局が用意した図書券に加えて、大澤副幹事から「手作り野菜」が提供され、当選者は新鮮な地場野菜に大喜びであった。

最後は新年度会長職の重責を担う飯田副会長から謝辞と新年度へ向けての決意表明があり、2 時間に及んだ懇親会は幕を閉じた。以下、写真により会場の様子を紹介し、懇親会の報告とする。

・ ビンゴゲームに皆熱中



・ 喉自慢の登場





最後の熱唱

なお、この定例会を最後に、一身上の理由により退会される山形忠顯会員が最後にお別れの気持ちを込めて「故郷」を熱唱され、会場に合唱の輪が広がり、心打つものがあった。

ハッピーコイン

◆プロバスクラブを愛し俳句同好会をこよなく愛した渋谷文雄会員がご逝去され同好会会員としては淋しい限りです。長い間お疲れさまでした。どうぞゆっくりお休みください。

ハッピーな事は双子の孫が沢山の言葉を話せるようになった事です。

飯田 富美子

◆1年間情報を担当してまいりました。皆さまのお陰で、無事努めることができました。ありがとうございました！又今月3日で74歳になりました。後期高齢者の仲間入り直前ですが、共にHAPPYです。

持田 律三

◆研修委員会を代表して、この1年間の皆様のご協力に感謝申し上げます。

研修委員会 委員長 有田 進治

◆入院しましたが、種々の検査は何も無く健康体でした。

永井 昌平

◆馬場会長をはじめ、理事の方々一年間ご苦労様でした。

永井 昌平

◆令和元年度「宇宙の学校」定員の100%を少々超える募集を受け入れて、6月9日東京工科大学会場を皮切りにスタートしました。

下山 邦夫

◆令和最初の宇宙の学校が9日に開催されました。子供達はよい出席率で元気に熱気球をあげていました。

高取 和郎

◆1年ぶりにアメリカから帰ってきた娘と孫と一緒に中京近辺に観光に行きました。娘も孫も鶴飼いを見たことなかったので大喜びでした。犬山城の天主の一番上まで登って息を切らしました。白川郷まで足をのばし、暑い中でのアイスクリームはおいしかった。

土井 俊玄

◆自主学習会「老年研究会」本年度最後のプログラムとして芳賀教授の講演会を無事終了しましたので。

杉山 友一

◆本日配布のプロバス日より、小生の記事がダブルで掲載となり大いに恐縮しています。

杉山 友一

◆実に4年ぶりにゴルフ同好会コンペにおそろおそろ参加しました。パートナーとの会話ははずみ、気づけば「完走」達成。ハッピー！

馬場 征彦

◆本日、サロンの抄録冊子の発送を完了し一段落しました。講師を務めていただいた会員の皆様をはじめ23回生涯学習サロンにいただいた会員の皆様のご支援に衷心より感謝申し上げます。

一瀬 明

◆来週よりバンコックでのんびりしてきます。カオマンガイとマンゴーを楽しみに

野口 浩平

◆「反戦を唱えし文雄遂に逝く 覚象（詠）」
渋谷文雄さん、昭和20年以来の邂逅、そして俳句同好会の立ち上げ、洵に嬉しかったです！楽しかったです！！有難かったです！！いずれ、亦、語らいましょう。「再見」

山形 忠顯

◆鮎の解禁、夏野菜の季節、我が家にはあじさい・ハナショウブ・すかしゆり等が満開。また庭の隅に植えてあるナス・キュウリ・トマトも収穫あり。季節にに応じて過ごせることはHAPPYである。

荻島 靖久

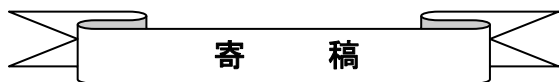
◆5月末に松の芽摘み、2軒分（娘の家と我が家）の垣根の伐採、大菊の鉢上げを完了させ気分すっきり。但しおかげで肩が凝った。

寺田 昌章

◆一年間、副幹事として務めさせていただきました。
ありがとうございました。 大澤 敬之

◆馬場会長を始め今年度の役員の皆様、誠にご苦勞
様でした。次期飯田年度の益々の発展を期して。

田中 信昭



自主学習会 老年研究会報告

杉山 友一

「時代を先駆けるケアタウン小平」

馬場会長年度の研修委員会活動の一環として、自主学習会の「老年研究会」を進めてきた。そんな中で去る5月30日には、現地見学学習として、終末期のケアシステムとして先進的な取り組みを展開するケアタウン小平クリニックを訪問する機会を得た。本件は久野会員の紹介で成立したプログラムで、当日は見学定員10名という先方からの指定であったが、結果的には少人数での中身の濃い学習の機会となった。

さて、ケアタウン小平クリニックの目的は、コミュニティケアリンク東京（認定NPO法人）という組織が中核となって展開する「在宅ホスピスケア事業」だ。組織の構成は、山崎章郎院長・理事長が中心に座る情報機関を核にして「訪問診療」、「訪問看護」、「ケアマネージャー」、「訪問介護」、「デイサービス」等々の関連する全ての業務が効率的に機能する仕掛けが施されている。

業務の分担はこうだ。①建物などのハードを提供する不動産会社があり、②建物内にクリニックを配置し、③24時間体制の「看護ステーション」・「デイサービス」・「ケアマネージャー」の各チームが待機し、④食の面では「配食サービス会社」があらゆる患者レベルの要望に応じている。⑤加えて事業活動を支える「市民ボランティア」が100人を超える規模で登録されていて、従来の常識的な枠組みの限界が完全に取り払われているのだ。我々の予想を超えた「チームケア」の体制が成立しているということだ。

そして何よりも尊敬に値する事柄として、この組織の凄いところは、業務の取り組みの基本に、亡くなりそうな人（終末期の患者）に対して「人間の尊

厳」を最大限尊重する思想、ヒューマンイズムが隅々まで行き届いているところにある。そのことは機関紙のケアタウンだよりの過去現在を通読すれば一目瞭然で、各セクションが同じ感性で繋がっていることが理解できる。これはまさしく山崎章郎院長・理事長の人格がしからしめる所以かと推測しているが、この仕組みは、近年ようやく国を挙げて取り組みが始まった地域包括ケアシステム構想の10年早いモデルと言われている。因みに、ケアタウン小平の活動範囲は小平市内4キロ圏内とのことである。

当日は創設以来14年をかけて築き上げてきた在宅ホスピスケア事業の現場で、山崎院長・理事長から2時間に及ぶ講義をうけて感じたことは、こんなケアタウンが我が地元八王子にも是非誕生してほしいということだ。2025年には160万人に及ぶといわれる我が国の多死社会を目前にして、事は急を要する気がしてならない。最後まで自分らしくありたいと願う気持ちを受け止めてくれるケアタウン小平のような在宅ケアシステムの広がりを願ってやまない。

誰の人生にも必ず終わりがある。万事は「終わり良ければ総て良し」と参りたいものだ。

東京オリンピックの思い出

河合 和郎

いよいよ来年に2回目の東京オリンピックが迫って来た。少しずつ機運が盛り上がりつつあるが、55年前の「東京オリンピック」程ではない。八王子の場合には「自転車競技」の会場に選ばれたことで、1964年のオリンピックは大いに盛り上がった。

八王子市内には自転車競技場が建設され、ロードレースの為に、道路の拡幅や新設が進められた。あまりにも工事を急いだために、十分な用地の確保が間に合わず、歩道のないバイパス道なども残され、当時の混乱ぶりを今に留めている。

自転車競技場のピスト（45度の斜度を備えた楕円形の特設バンク）が多摩御陵参道の南側（現在の陵南公園野球場）に造られた。この競技場は自転車競技専用のものであったが、「仮設」と言うことで、オリンピック終了後に解体された。現在、陵南公園の片隅に記念碑がひっそりと残されているのみである。

競技に参加する選手団の為に競技場に隣接して選手村が作られた。五輪の旗と参加国の国旗が東浅川

の川面に映り、国際色豊かな光景を現出していた。

以前、この紙面に私は「東京オリンピックから半世紀」と題して小稿を掲載したことがある。私自身が市の職員として、臨時に組織された「オリンピック事務局」に派遣された体験記である。その際、何れの機会に「五輪裏話」を書きたいと記した。

オリンピックの開催を1年後に控え、今がそのタイミングと考え、続編に挑戦することとした。

〈裏話その1・写真屋さん繁盛記〉

オリンピック事務局は東浅川の陵南会館（写真・元宮廷駅）内に置かれた。多摩御陵の参道を南に下った、JR中央線に突き当たる場所で、現在は公園として管理されており、当時の駅舎も災難により焼失して現存はしていない。事務所としては競技場に近く絶好のポジションであった。



地元が主催する歓迎レセプションや様々な歓迎行事で、仕事は深夜にまで及んだが、市役所的でない「何でもあり」の仕事の中身に大きな魅力を感じて、張り切って取り組んでいたのを思い出す。

写真取材は、選手村への入村風景、競技や表彰式、野点のお茶会や日本舞踊・ファッションショー、はては山車の登場まで、何でもありの歓迎行事が連日展開され、模擬結婚式までも被写体になった。

そんな時、競技や表彰式、レセプションでの市民との交流の様子などを写した写真を選手村の掲示板に「写真速報」として掲出したところ、選手や関係者からは是非プリントして欲しいとの要望が多く出された。これに対応して、連日注文取りと写真屋さんへの発注に追われた日々が続いた。

市内の写真館に頼み込み、夜遅くに撮影したフィルムを持ち込み、翌朝までに仕上げてもらうハードな仕事にも快く協力して頂いた。

小さな選手村での小さなサービスが、ささやかではあるが国際親善の一助になった。今でも楽しかった「番外編」の仕事として懐かしく思い出されるのである。（次に機会があれば聖火リレー秘話を。）

俳句同好会便り

私の一句〈六月の句会から〉

河合和郎

俳句同好会のまとめ役だった渋谷文雄さん（俳号は皆空）が逝かれて初めての句会。句会には思い思いの追悼句が寄せられた。改めて文雄さんの存在の大きかったことを知らされた。

皆空節皐月の空に消え行きぬ 東山 榮

「皆空」は文雄さんの俳号。文雄さんのあの説得力のある「皆空節」を聞くことはもうできない。

風鈴の音鳴り止まず浜の宿 矢島 一雄

今月の兼題は「風鈴」。旅先の宿の一景か。浜風に絶え間なくなる風鈴の音は旅心をくすぐる。

逝く人を包みて深し五月闇 池田ときえ

文雄さんの追悼句。深い想いが伝わって来る。あんなこと、こんなこと、みな深い闇の彼方へ。

風鈴や縁側という応接間 田中 信昭

風鈴と縁側の取り合わせが上手い。最近縁側のある家は少なくなっているが思い出の中の応接間。

逝きし人呼べば潤めり夏の星 飯田富美子

追悼句。句の友を送っての帰り道、遠い人の名を呼んでいる。目に熱きものが……星空が滲んでいる。

骨太の句友は逝けり青嵐 馬場 征彦

追悼句。いつも句座の中心だった文雄さん。大きな存在だった。骨太・青嵐に文雄さんらしさが。

病床の友は旨いと西瓜喰ふ 野口 浩平

何くれとなく文雄さんのお世話をしていた作者。お見舞いの西瓜を旨い旨いと食べる姿が目に残る。

忘れぬ渋谷皆空俳談義 山形 忠顯

今月退会された忠顯さんは「文雄さん、昭和20年以来の邂逅。そして俳句同好会の立ち上げ、洵に嬉しかったです。楽しかったです。」と惜別の言葉を。

句の友や句集抱きて五月尽 河合 和郎

文雄さんは柩の胸に句集を抱いて逝かれた。

編集後記：

年度末最後の大仕事。懇親会の席上、各委員会のメンバーが壇上に上り、委員長からのご挨拶。情報委員会だけ写真なし。自分の委員会の写真撮影をうっかり。皆さん一年間お疲れ様でした。来期もどうぞよろしく。 河合 和郎